

記憶に刻まれた戦士たち

~KOMAZAWA'S LEGEND PLAYER~ 05~07年

FORZA 駒澤が創刊してから 200 号を迎えた。その間に駒澤大学には多くの偉大なプレイヤーが誕生した。今回は 101 号~200 の間に多くの功績を残し、卒業していった 05~07 年卒のプレイヤーにスポットを当てる。

赤 嶺ほどストライカーという言葉が似合う男はいない。シュートセンス、驚異的なジャンプ力、裏へ飛び出し、ゴール前での鋭い嗅覚とどれをとっても一級品。ストライカーとしてのポテンシャルは当時からずば抜けていた。さらに空中戦の強さを武器としたポストプレーで攻撃の起点となり、駒大になくしてはならない絶対的存在であった。そんな赤嶺の印象に残るスーパーゴールは 05 年インカレ準々決勝の中京大戦で決めたゴールである。後半終了間際、一瞬で DF の前に入り、最高のタイミングで決めたダイビングヘッド。チームを準決勝に導いたこのゴールは赤嶺のストライカーとしての本能が呼び込んだ決勝ゴールだった。



FW 赤嶺真吾
『リアルストライカー』

1983 年 12 月 8 日生。179cm/
74kg。鹿児島実業高→駒大→
FC 東京

中 長距離のキックが武器のボランチ。中盤の底からゲームを組み立てる駒大のキングとして君臨し、その右足から幾多のゴールを演出した。一方で熱いハートの持ち主でもあり、両手を叩いて仲間を鼓舞する姿もしばしば見られた。ハイライトは 04 年インカレ準決勝。相手はリーグで 2 敗し、優勝を目前で阻まれた因縁の筑波大だったが、自らの 2 ゴールで退け、チームを決勝へと引導した。後に廣井友信が「04 年のベストゲーム」と語ったように、この試合がインカレ優勝への布石となったのだった。また鈴木亮平が「サッカーに関してかなり相談に乗ってもらった」と言うように後輩達の良き参謀役としての顔も持ち、チームを影からも支えた。



MF 中後雅喜
『駒大のキング』

1982 年 5 月 16 日生。178cm/
73kg。市原ユース→駒大→鹿島



FW 原一樹
『ピッチに君臨するカリスマ』

1985 年 1 月 5 日生。177cm/73kg。
市立船橋高→駒大→清水

駒 大のサッカーには一人一人に求められる役割がある。だが原に求められた役割は少し違った。原には他選手以上に自由が与えられたのだ。それにより原は水を得た魚のようにピッチで躍動し、持ち前の突破力とテクニックで多くの得点を生み出した。自由を与えられた分だけ結果を残す原は大舞台にもめっぽう強かった。05 年度筑波大とのリーグ優勝をかけた大一番ではオーバーヘッドをゴールネットに突き刺し優勝に貢献すると、同年に行われたインカレ決勝では退場者を出し苦しい展開の中、1 得点 1 アシストの活躍で MVP に輝きチームを優勝に導いた。実力とカリスマ性を兼ね備えたストライカーは記憶に残るスーパーゴールとチームに多くのタイトルをもたらした。



DF 廣井友信
『高さで負けない統率者』

1985 年 1 月 11 日生。180cm/
75kg。前橋育英高→駒大→清水

空 中戦での絶対的強さは廣井という選手を語る上でかかせない。どんなにヘディングが強い選手でも廣井には苦しめられ、相対したくない CB だ。さらに、DF ラインを統率し、熱い魂で後ろから選手たちを鼓舞し、持ち前のリーダーシップでチームを引っ張った。そんな廣井は 3 年のリーグ戦で MVP を受賞し、名実と共に大学 No. 1 DF まで成長を遂げた。主将となった 06 年シーズンは総理大臣杯、リーグ戦で優勝を逃してしまったがインカレでは駒大らしさを取り戻し、決勝では早大を 6-1 で粉砕。インカレ 3 連覇という最高の形でフィナーレを迎えた。